



**High-Precision Radiocarbon Dating and Its Role in Researches of
Historical and Archaeological Sciences—Status and Prospects—**

今村峯雄

はじめに

① 高精度年代測定法による総合的歴史研究

② 炭素14年代測定法と暦年較正

③ 日本の木材試料に対する暦年較正—精密化をめざして

④ AMS法による炭素14年代測定 より適した資料の選択を

⑤ 高精度炭素14年代測定がもたらすもの

⑥ 炭素14ウイグルマッチ法—出雲大社境内遺跡本殿柱材の年代

⑦ 暦年較正に関連して

⑧ 課題と展望



自然科学的な年代測定法は、資料の年代情報を得る手段として考古学研究においてしばしば重要な役割を果たしてきた。その中で、炭素14法はさまざまな有機起源炭素の年代測定に適用することができ、同時に比較的高い年代精度が得られるので、とりわけ有用な年代測定法である。この方法は、1990年代後半以降ハード・ソフト両面からの高精度化が進んだ結果、従来ない精度で実年代を議論できる段階に達している。それは、1つには、AMS（加速器質量分析法）を用いる炭素14測定技術の、精度・感度・測定効率における飛躍的な進展、また1つは測定値を暦年較正して実年代に転換するための、国際的データベース構築というソフト面での進展によるものである。こうした質的な発展段階を迎え、高精度炭素14年代測定を歴史研究へ積極的に活用することが期待されるのである。

本稿では、最近における高精度炭素年代測定法の現状をレビューするとともに、国立歴史民俗博物館において取り組んできた基礎的研究や若干の応用的研究に言及しつつ、高精度炭素年代測定を用いた歴史研究の可能性と課題について述べる。年代測定は、極めて学際的なテーマである。自然学者と歴史科学・考古学の研究者間の緊密な連携と相互の情報のフィードバックの必要性を強調する。